

パッケージ一覧 : フルパッケージ

リリース日 : 2010年7月29日

製品 : DocAve® 5.5.0.0

## 新機能

- **SharePoint 2010 のサポートと機能強化**

DocAve の全モジュールが SharePoint 2010 と SharePoint Foundation 2010 をサポートするようになりました。以前のすべての DocAve 機能に加え、SharePoint 2010 の新機能にも対応するようになりました。その例としては、サイトの重要性設定や検索機能、そしてサイトや管理者の評価システムなどオペレーションサポートがあげられます。サポートされる SharePoint 2010 の機能に関しては DocAve ユーザーガイドの SharePoint 2010 のサポート機能一覧を参照してください。

- **スプロールコントロール機能の強化**

全体管理より AD 削除済みアカウントの整理と権限移行機能がファームと Web アプリケーションレベルにて行うことが可能になりました。また、適用業務ルールに基づいて孤立サイトが自動的に削除されるようになりました。DocAve リーガルホールド for SharePoint が強化され、より完全な環境のイメージを管理者に提供します。これにより、管理者は DocAve をより効率的に展開し、各機能を使用できるようになりました。

- **ベンチマークにおいてメディアサービスのパフォーマンスが大幅に改善**

AvePoint と独立機関によるテストを行い、両テストにおいてメディアサービスのディスク I/O、バックアップとリストア ジョブ、そしてストレージ最適化機能のスピードが大幅に改善されたことを確認しました。レポートポイントにおいてもエージェントサービス間の平均スループットと通信スピードを表示し、環境のボトルネックを明らかにする新しいレポート機能を提供します。

## 既知の問題

- **特定モジュールにおいて IPV6 未対応**

IPV6 環境構成の複雑さにより、IPV6 環境では次のモジュールおよび機能は動作しません。(アカウント管理、IPV6で設定された論理デバイス、リアルタイムレプリケーション、WEBサービスに基づいたプラットフォームバックアップとリストア、SharePoint 2007からSharePoint 2010への移行ジョブ) 通常、DocAveユーザーにはSharePoint/DocAve環境ではIPV4を使用することを推奨しています。

- **展開マネージャーとデザインマネージャーにてフォルダレベルフィルター機能未対応**

管理モジュールにて展開元の範囲を指定する際、フォルダレベルにおけるフィルタ機能を使用できません。フォルダレベルにてフィルタオプションが定義されている場合、このルールは実行されるジョブには適応されません。フォルダ中のアイテムをフィルタするには、アイテムレベルフィルタを使用するか、フォルダを他の場所に移動することによりフィルタを行います。

- **ファイルストリーミングとレプリケーターの同時使用について**

SQLサーバー 2008 上でファイルストリーミングが使用可能な状態でSharePointを実行している場合、DocAveを使用してコンテンツをレプリケートすることはできません。レプリケーターモジュールを使用する場合はファイルストリーミング機能を無効にする必要があります。

- **異なるビュータイプ間 (パブリックと個人用) におけるビュー設定レプリケーション未対応**

現在、DocAveはビューが移行元で「パブリック」に設定してあり移行先で「個人用」に設定してある場合(又はその逆)、ファーム間におけるSharePointビューに対する変化をレプリケートすることができません。2つのSharePointサイト間でSharePointビューの変化を双方向でレプリケートする場合、ビューのタイプが統一されていることを確認してください。

- **異なる SharePoint のサイト間での「参照列」レプリケート**

レプリケーターでは現在、SharePointサイト間で「参照」タイプの列をレプリケートすることができません。これらの列は手動でレプリケートする必要があります。

- **DocAve 5.3.1 から 5.5.0 へのバージョンアップ スタンバイセンタープラン移行未対応**

お使いの環境をDocAve 5.3.1からバージョンアップする場合、以前から構成されていたDocAveスタンバイセンターのプランやオフライン同期ルールは移行することができません。これらのプランは新しい環境で作成しなおす必要があります。

- **接続済みファイルシェアライブラリの「元の場所へ」のプラットフォームリストア不可**

接続済みのファイルシェアライブラリを含むSharePointサイトを「元の場所へ」リストアする場合、リストアジョブではライブラリのコンテンツがリストアされません。ライブラリは適切な設定で作成され、同期オペレーションが実行することで連結済みのコンテンツを含むライブラリが作成されます。

- **DocAve Notes/Domino 移行による OLE オブジェクト移行不可**

オブジェクトリンクと組み込みオブジェクトは、現在 DocAve Notes/Domino 移行でのインポートはサポートされていません。これらのオブジェクトは SharePoint に対して手動でアップロードする必要があります。

- **DocAve ファイルサーバー コネクタでは標準のビューのみをサポート**

SharePoint 2010 によるアーキテクチャ変更によりドキュメント又はメディアファイルの同期、レポート表示などのオペレーションを行うためには、カスタムビューではなく標準のビュースタイルでライブラリを閲覧する必要があります。

- **SharePoint 2010 (RTM) にて DocAve コンテンツマネージャー 高度モードに既知の問題**

コンテンツマネージャーを使用してサブサイトをサイトコレクションに昇格しても、移行先サイトコレクションにはデータが移行されません。

- **SharePoint 2010 (RTM) のブログテンプレートを使用時のサブサイト昇格不可**

コンテンツマネージャーを使用してブログテンプレートを使用したサブサイトをサイトコレクションに昇格すると、エラーなしでジョブが完了します。しかし、移行先サイトはチームサイトテンプレートになりコンテンツは移行されません。

- **デザインマネージャーを使用してのファイルシェアライブラリ間移動不可**

デザインマネージャーを使用してコンテンツをひとつの接続済みファイルシェアライブラリからもう一つのファイルシェアライブラリに移動する場合、コンテンツは通常通りライブラリに表示されますがコンテンツデータベース上にコンテンツが保存されます。通常のファイルシェアライブラリのようにディスクストレージ上にはコンテンツが保存されません。

- **コンテンツマネージャーを使用した SharePoint 2010 FBA のユーザーマッピング不可**

SharePoint 2010 フォームベース認証ユーザーのストレージフォーマット変更のため、それらのユーザーはマッピングされずコンテンツマネージャー機能を適用することができません。

- **SharePoint 2010 ではオフラインレプリケーターのいくつかの機能が未サポート**

オフラインレプリケーターは SharePoint 2010 環境用に外部の SQL データベースが構成されている場合にのみ使用することができます。ビルトインデータベースを使用している場合は、オフラインレプリケーターを使用できない可能性があります。FTP デバイスにおいてもレプリケーションシーケンス上で「レプリケーション前にバックアップ実行」が選択された場合、作成されたデータを「元の場所へ」オプションにて上書きリストアを行うことができません。また、レプリケーションジョブの移行先でウェブサービスが構成されている場合には、現在バイトレベルの差分がサポートされていません。その場合ジョブはジョブモニターログで「メモ」を残し完了します。

- **SharePoint 2010 においてデザインマネージャー “展開前にバックアップする” オプション使用不可**

デザインマネージャーを使用し “展開前にバックアップする” を選択し作成したバックアップデータは、ディスクキャッシュ掲示板テンプレートタイプのサイトにて “元の場所へ” リストアすることはできず、また、リストア時に空のサイトへ上書きすることもできません。

- **MOSS 2007 におけるアーカイバ プラン 保存時の問題**

MOSS 2007 環境でアーカイバ プランを作成する際、インデックスはアーカイブするデータと同じ論理デバイス上に保存されなければなりません。インデックスを他の論理デバイスに保存した場合、アーカイブ済みのコンテンツに対して参照、リストア、またはその他のオペレーションの実行を試みると、予期しない動作が発生します。

- **Windows 2000 からの Notes/Domino 移行**

Windows 2000 環境に Lotus Domino サーバーがインストールされている場合、DocAve は Lotus Notes コンテンツを移行することはできません。

- **WSS 3.0 を実行中にメディアシェア ライブラリ用の “コンテンツへのリンクのみをレプリケート” を使用してのレプリケート不可**

メディアシェア ライブラリから “コンテンツへのリンクのみをレプリケート” を使用してレプリケートすると、それらのリンクは元のドキュメント ライブラリでは正常にイメージファイルを表示することができますが、レプリケート先では同じように元のイメージファイルを参照しません。ファイルへのアクセスは可能ですがサムネイル プレビューは機能しません。